

平成30年度における地方創生の取組について (これまでの議論のとりまとめと主な事業概要)

「人口減少を見据えた豊かな滋賀づくり総合戦略」の19のプロジェクトのうち、「人口減少を食い止め、人口構造を安定させる」ための5つのプロジェクト(自然増および社会増のための施策)について、これまで本特別委員会にて、本県の現状および県の施策を説明し、各委員からご意見をいただいた。

この5つのプロジェクトにかかる特別委員会での議論について、平成30年度予算案への反映状況等を整理するとともに、主な事業概要についてとりまとめた。

1. 自然増のための施策

- ①「結婚・出産・子育てするなら滋賀」プロジェクト
- ②「豊かな学びのフィールド・滋賀」人づくりプロジェクト

2. 社会増のための施策

- ③ 次世代のための成長産業創出プロジェクト
- ④ 産業人材育成・確保プロジェクト
- ⑤ 滋賀の素材・魅力磨き上げプロジェクト

①「結婚・出産・子育てするなら滋賀」プロジェクト にかかる意見と平成30年度の取組

意見

平成30年度の取組

1	出会いの場をどうしていくか、本当に難しい問題である。もっと出会いの場をみんなでしっかり考えていかないといけない。	➤ <u>企業の結婚・子育て支援促進事業</u> (ネットワークづくりの推進)(継続) ・各地域で出会いの場づくりに取り組む団体や企業等のネットワークづくりを進め、イベント等の情報発信を行うことにより、出会いの場づくりに取り組む企業や団体の取組を支援する。
2	離婚率も上がってきている中、ライフプランニングを考える機会を設ける取組をしていただきたい。	➤ <u>高校生・大学生向け「フューチャーマップ」創造支援事業</u> (拡充) ・若者にライフデザインについて考える機会を提供することを目的に、大学生や高校生に対するライフデザイン講座、幼児ふれあい体験活動に対して支援を行っていく。
3	赤ちゃんに触れることで子どもを持ちたいという意識を持つと言われているので、ふれあい体験を進めることが大事だと思う。	
4	ひとり親世帯でも、滋賀県では実家のサポートを受けている世帯も一定数あると思われる。まずは、実態の把握が必要。	➤ <u>ひとり親家庭等生活実態調査事業</u> ・ひとり親家庭を対象に生活の実態調査を実施(5年毎)
5	1人目に対するしっかりとした支援があり、子どもを持つ喜びを実感できれば、2人目、3人目を持とうとなるので、1人目に対する支援に軸足を置く方がよいのではないか。	・すべての子どもに対する教育・保育の無償化について、現在、国で検討中。 (参考)多子世帯子育て応援事業
6	待機児童について、隣接する市町間でも差があるので、市町間の調整を政策的に誘導できないか。	・待機児童がない市町において、一定の要件のもと広域利用調整により他市町の児童を受け入れている。

「結婚・出産・子育てするなら滋賀」プロジェクト

「滋賀で家族になろう」推進事業

【予算額 10百万円】



課題

結婚を足踏みさせる環境要因

○家と職場の往復のみで、出会いの場がない

○不安定な社会情勢と将来の経済的に安定した生活への懸念による恋愛・結婚の先送り

○仕事、結婚、妊娠・出産、子育て等を見通したライフデザインについて学ぶ機会の不足

【H29県政世論調査】

・力を入れてほしい施策第1位:

「結婚・出産・子育てまでの切れ目のない支援」

【H26結婚・家族形成に関する意識調査(内閣府)】

・現在結婚していない理由:

「適当な相手にめぐり合わないから」54.3%

「結婚後の生活資金が足りないと思うから」26.9%

目的と取組の方向

○企業との連携による出会いの場の創出

○社会全体で、若者の結婚への一歩を応援

○恋愛・結婚を始めとしたライフイベントを考えるきっかけづくり

○若者の結婚を応援する機運の醸成

事業内容



● 企業の結婚・子育て支援促進事業【5,970千円】

★ネットワークづくりの推進

地域で出会いの場づくりに取り組む企業・団体のネットワーク構築(意見交換会・研修会開催)

★企業の結婚や子育て支援をプロモート

企業に対する結婚支援・子育て支援の取組の情報提供、参画への働きかけ、理解の促進

★「あいはぐパスポート」の体制構築

結婚予定の男女や新婚夫婦を対象に、協賛店舗から特典が受けられるパスポートの発行

● 学生向け「フューチャーマップ」創造支援事業【1,400千円】

★高校生向けライフデザインの形成を支援

高校生向けライフプランニングや幼児ふれあい体験活動のプログラムを構築

高校生向け講座を実施できる講師人材の養成、モデル講座の実施

★学生向けライフデザイン講座等の開催を支援

大学生等を対象としたライフデザイン講座や幼児ふれあい体験活動の開催経費補助

● 学生アイデア提案事業【2,300千円】

★学生のアイデアや提案を活用

学生自らのアイデアや提案をもとに、結婚や出産、子育て、ワークライフバランス等をテーマにした映像を制作し、同世代の関心を引き出すとともに、自らが自分らしい生き方を考えるきっかけとする。

結婚への一歩を踏み出す若者の増加

②「豊かな学びのフィールド・滋賀」プロジェクト にかかる意見と平成30年度の取組

意見

平成30年度の取組

1	滋賀県の学力テストの結果をしっかりと分析した上での取り組みが必要である。	➤ <u>学ぶ力向上プロジェクト(継続)</u> ➤ <u>学びの質を高める学校改善事業(新規)</u> ・教員の指導力向上に関する事業に取り組むことで、授業を改善し学ぶ力向上を目指す。 ・民間教育機関の学力調査分析を生かし、家庭学習に効果ある手法を活用
2	学力を伸ばしている子と塾の関係、学力が伸びない子と家庭の関係をしっかりと分析してほしい。	➤ <u>学びの質を高める学校改善事業(新規)</u> ・通塾と学力との関係については明らかな関係性は見られないが、家庭学習の時間が全国平均よりも少ないことは明らかとなっており、家庭学習の内容や方法についての工夫改善に取り組む。
3	桐生選手や大橋選手など素晴らしい若者が出てきているので、自信を持って滋賀県の子どもは育つというメッセージを発していただきたい。	・桐生選手や大橋選手と同様に、それぞれの努力により才能を開花させ、一定レベル以上の成果を示している児童生徒が県内にもたくさん学んでいる。そういう環境を持続拡大していくことに努める。
4	家族を持つということについて、心がまだ柔軟な小中学生に対して、考える機会を設けることが重要。	・小中学校の家庭科では、家庭や家族の基本的な機能、自分と家族のかかわりに関心をもち考えること、また、道徳では家族の一員としての自覚をもつことを学ぶことになっており、適切に対応していきたい。

「豊かな学びのフィールド・滋賀」プロジェクト

学ぶ力の向上を図り、夢と生きる力を育む

【予算額 374百万円】



現状と課題

- ・これからの時代に求められる力を育てる学校教育の質的向上

- ・アクティブ・ラーニング型の授業スタイルは普及したが、子どもたちに「わかった、できた」という実感がある授業が実現できていない。
- ・生活習慣(家庭での過ごし方)に課題がみられる。

(全国学力・学習状況調査結果と「学ぶ力向上滋賀プラン」の分析から)

- ・新学習指導要領への対応
- ・高大接続改革への対応

何ができるようになるか

- ・学びに向かう力・人間性の涵養
- ・思考力・判断力・表現力等の育成
- ・生きて働く知識・技能の習得

各学校での「カリキュラム・マネジメント」の推進

何を学ぶか

- ・基礎的・基本的な学力の定着
- ・各教科等で育む資質・能力を明確化
- ・小学校英語教育の教科化

どのように学ぶか

- ・主体的・対話的で深い学び(「アクティブ・ラーニング」)の視点からの授業改善

(中央教育審議会の資料から)

県が取り組む主な施策

教員の指導力を高め、授業の質的向上を図る

- ・新学習指導要領の全面实施に向けた取組の充実
- ・「学ぶ力向上 滋賀プラン」の実効性を高め、子どもたち一人ひとりの確かな学力を向上

〇しが英語力育成プロジェクト(教職員課・高校教育課・幼小中教育課)

(※は教職員給与費)

小学校段階からの系統的な英語教育の推進(8.9百万円)

小学校における英語専科教員の配置(236.2百万円※)

〇主体的・対話的で深い学びの推進(教職員課)(57.2百万円※)

主体的・対話的で深い学びを図る授業改善

新学習指導要領への対応

〇学ぶ力向上プロジェクト(幼小中教育課)(1.5百万円)

・学校訪問の充実 県内全小中学校への指導主事等の訪問(年2回)による授業の改善

・中学校授業改善推進 指導力のある教員による教科指導の改善

〇「学びの変革」推進プロジェクト(高校教育課)(24.1百万円)

高等学校モデル校での指導・評価の研究、「学びの変革」セミナーの開催、

コアティーチャーによる公開授業、ICT活用の推進、高大連携の拡充

〇学びの質を高める学校改善事業(幼小中教育課)(4.9百万円)【新規】

指定校での学力調査等を活用した検証改善サイクルの確立と手法の普及

民間教育機関の学力調査分析を生かし、家庭学習に効果ある手法を活用

確かな学力向上の取組

〇退職教員の豊かな経験を活用した学校教育活動支援(教職員課・幼小中教育課)

(30.8百万円※)【新規】

・補習や発展的な学習への対応

放課後・土曜日等における補習や発展的な学習への支援

・2年目教員の指導力向上

指導力のある退職教員による若手教員(小学校2年目)への指導

〇子どもの力を引き出し伸ばす教職員の実践力の向上(総合教育センター)(10.3百万円)

教職経験・職務に応じた研修の充実、教員に求められる資質・能力の向上

③ 次世代のための成長産業創出プロジェクト にかかる意見と平成30年度の実施

意 見	平成30年度の実施
1 廃業の手前で県などに相談が入ってくると思うが、県はどのような支援をしているのか。	➤ <u>事業承継に対する実施</u> ・ネットワークの構築による集中的な支援（新規） ・商工会や商工会議所等によるセミナー等の実施（拡充） ・県制度融資による事業承継支援（拡充） ・経営承継円滑化法に基づく認定等（継続）
2 新しい産業を作っていないと人材の確保は難しいと思うが、このような状況についてどう考えているのか。 滋賀県の仕事としては、県内企業の魅力を高めていく、あるいは滋賀県にしかない企業をどう作るかということだと思うが、どうか。	➤ <u>地域未来投資支援コーディネート事業（新規）</u> ・「成長ものづくり（健康・医療機器、バイオ・新素材）」等の分野を中心とした研究開発プロジェクト創出のコーディネート支援等を行う。 ➤ <u>滋賀発成長産業発掘・育成事業（継続）</u> ・本県における理工系大学、ものづくり企業の集積等の強みを活かし、国内外を舞台に活躍する“研究開発型ベンチャー”の発掘・育成を図る。 ➤ <u>IoTによるイノベーションの推進（継続）</u> ・IoT活用により新ビジネス創出や地域課題解決を目指す関係者に最新情報、交流・出会いの場の提供やプロジェクトチームの形成、実証実験フィールドの環境整備等の支援を行うとともに、事業効果の高いプロジェクトに対する補助金による事業化支援を実施する。
3 ビジネスメッセについて、目新しい取り組みはあるのか	➤ <u>びわ湖環境ビジネスメッセ開催事業（継続）</u> ・SDGsに関する取組の情報発信や「新技術・新素材のエコ革命」に関する特設ゾーンの設置等に新たに取り組む。

地域未来投資支援コーディネート事業

【予算額 17百万円】



事業の趣旨・目的

地域経済・産業の成長発展の基盤強化のため、平成30年1月に国から同意を得た地域未来投資促進法に基づく基本計画において重点的に取り組む分野である「成長ものづくり（健康・医療機器、バイオ・新素材）」、「環境・エネルギー」および「第4次産業革命関連（IoT活用等）」分野を中心とした研究開発プロジェクトの構築に必要な支援機能の充実・強化と成長性の高い産業分野へ挑戦する事業者の資金調達に対する支援（金融サポート）を通じて、地域経済牽引事業の創出と本県における「稼ぐ力」の好循環の実現を目指す。

◇対象者：県内に拠点を置くものづくり中小企業等

◇事業運営者：県内産業支援機関

※金融サポート事業は県内に拠点を置く金融機関等と連携して実施

事業の位置付け

「成長ものづくり（健康・医療機器等）」+「環境・エネルギー」+「第4次産業革命関連」

① 地域未来投資支援コーディネート事業(H30～)

「成長ものづくり（健康・医療機器、バイオ・新素材）」、「環境・エネルギー」、「第4次産業革命関連」分野を中心に、「地域経済牽引事業計画」の承認を目指す研究開発プロジェクトの創出に向けた「コーディネート支援」および「金融サポート」を実施

「地域未来投資促進法」に関連する支援ツールの活用・提供

- ・設備投資に対する課税の特例措置、補助金等（国）の活用
- ・金融サポート事業（利子補給）（県事業）の提供

■プロジェクトチーム検討会

- ・検討会の立ち上げ支援
- ・検討会への参画、情報提供等

■マッチング

- ・マッチング、パートナー関係の構築
- ・プロジェクトチームの構築

■相談者への対応

- ・支援メニューの紹介
- ・地域経済牽引事業計画作成支援 等

■講演会・セミナー等の開催

テーマ例：地域未来投資促進法の解説
成長ものづくりの先進事例紹介 等



地域未来投資支援
コーディネータ



④ 産業人材育成・確保プロジェクト にかかる意見と平成30年度の取組

意見

- 1 県内大学における県外出身者の県内就職率は、6.9%と低い数値となっているが、今までにはない新しい取組が必要。
- 2 人材不足について、どのような仕事でも理想と現実のミスマッチは起こりうる。まずは3年間、頑張っけて続けてもらえるような支援を考えていただきたい。
- 3 学生のニーズをつぶさに分析する必要がある。学生のニーズを県内の事業者、事業者の情報を学生に、しっかり伝えることが必要と感じる。

平成30年度の取組

➤ 働くなら滋賀！人材育成助成事業(新規)

- ・県内中小企業における採用後の研修の充実を促進し、大学卒業予定者をはじめとする若年求職者が、働くなら滋賀の企業へと感じることにつなげていくとともに、従業員のスキルアップや定着率の向上を図るため、採用後3年以内の従業員に対して行う人材育成に必要な経費に対して助成を行う。

➤ 地域創生人材育成事業(継続)

- ・人手不足が生じている分野および人手不足が懸念される成長分野等の人材育成・確保を図るため、企業や民間教育訓練機関等と連携し多様な職業訓練を実施する。

➤ 若年人材確保・就職支援拠点機能強化調査事業(新規)

- ・おうみ若者未来サポートセンターにおける県内企業の人材確保等への支援機能の強化を図るため、大学生や県内企業を対象にニーズ調査等を実施する。

➤ 産業人材育成・確保のグッドジョブプロジェクト事業(継続)

- ・企業情報サイト「WORKしが」や企業PR冊子による県内企業の情報発信を行うとともに、県域でのインターンシップの普及・拡大を行う。
- ・県外大学との「就職支援に関する協定」の締結を進め、学生や保護者に対する県内企業情報や各種イベントの周知、学内で行う合同企業説明会の開催などを、相互に連携、協力して実施する。
- ・ツイッターによる県内高校卒業時からの就職情報等の発信を行う。

➤ ふるさと滋賀就職応援事業(継続)

- ・おうみ若者未来サポートセンターに「Uターン就職コーディネーター」を配置し、大学訪問により県内外の大学との関係性を構築するとともに、各種Uターン就職イベントに参加し、県内就職情報等の発信を行う。また、県内企業と県内外の大学に通う学生のマッチングを図るため、合同企業説明会等を開催する。

産業人材育成・確保プロジェクト

滋賀の産業を支える人材の育成・確保

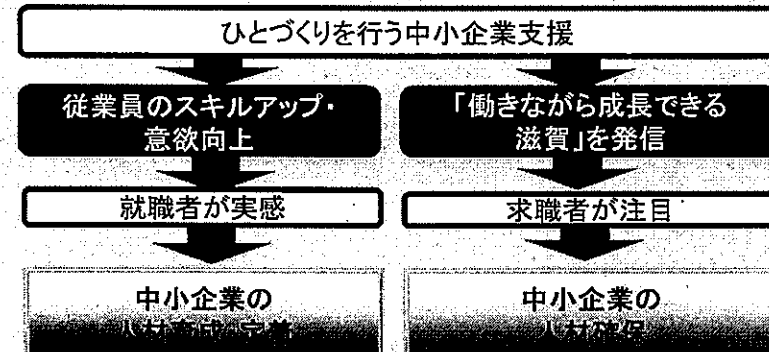
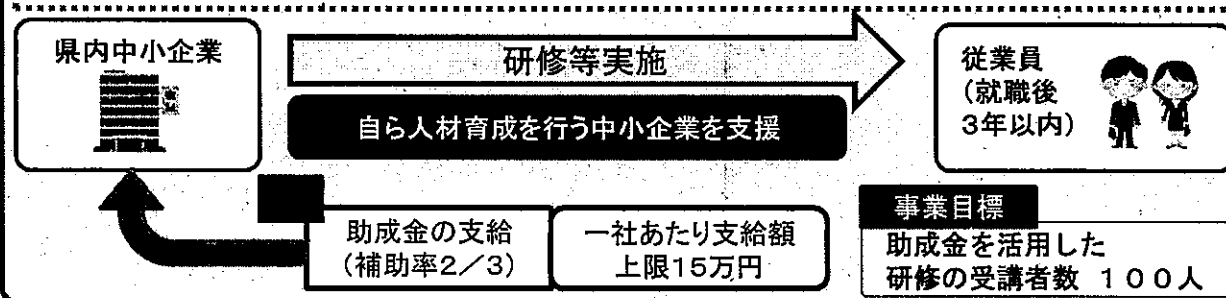
【予算額 30百万円】



◎中小企業の人材育成・定着の促進【新】働くなら滋賀！人材育成助成事業：7.6百万円】

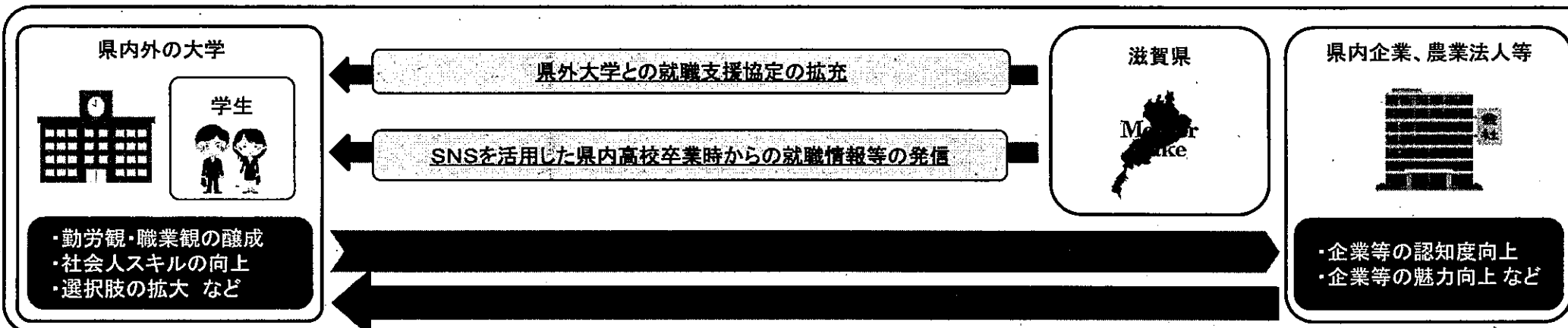
- 多くの県内中小企業が、「人材の確保」や「社員の育成」への支援を求めている。
- 大卒の約3割が就職後3年以内に離職
- 県内大学の卒業生の約8割が県外で就職

県内に本社等がある中小企業に対し、採用後3年以内の従業員が、職場を離れて行う研修等の人材育成に係る研修受講料等の経費について、1社当たり15万円（補助率2/3）を限度として助成を行う。



◎若者の県内定着の促進【産業人材育成・確保のグッドジョブプロジェクト事業：22百万円】

- ①県内大学生の県内民間企業就職率が低い。(H28:11.9%) → 県内大学生の県内企業等の認知度が低い。
- ②新規大学卒業生の3年以内離職率が高い。(全国で約3割) → 就職時に学生と企業等との間でミスマッチが生じやすい。



⑤ 滋賀の素材・魅力磨き上げプロジェクト にかかる意見と平成30年度の実組

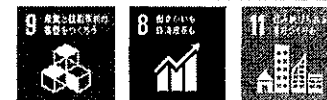
意見

平成30年度の実組

1	観光入込客数について、外国人は傾向がかなり違うので、ターゲットを絞ってしっかりと取り組んでもらいたい。	➤ <u>国際観光推進事業(拡充)</u> ・東アジア、東南アジア、欧州といった各市場の嗜好に合わせたプロモーションを引き続き実施。 ・ターゲット層を明確にした上で、ニーズに応じたファムドリップを実施。
2	ファムドリップは単に滋賀県に来てもらったら良いというものではなく、来県による情報発信により効果があがる形で実施されたい。	
3	観光入込客数が増加しているが、その施設を目的に来ているかを聞かないと、本来、滋賀県が目的地でない人も入ってしまうのではないかと、しっかり調査することが重要。	➤ <u>観光統計調査事業(拡充)</u> ・H30からアンケート調査の対象者数および調査地点を拡充予定(対象者3,000人⇒10,000人、調査地点は検討中)
4	「旅行を思い立ったきっかけ」を見ると、県の施策をきっかけに来た人が少ないが、どう考えているか。	➤ <u>観光キャンペーン「虹色の旅へ。滋賀・びわ湖」の推進</u> ・本県の多彩な魅力を統一的なテーマで集中的に発信するとともに、全市町で220を超える地域の素材を活かした観光プログラムを展開するなど、県・市町・事業者等と一体となった総合的な観光キャンペーンにより、本県への誘客につなげる。

滋賀の素材・魅力磨き上げプロジェクト

観光キャンペーン「虹色の旅へ。滋賀・びわ湖」の推進【予算額 135百万円】



県・市町・事業者と一体となった総合的な観光キャンペーンを展開し、観光地滋賀の認知度向上を図るとともに、地域をあげた受入れ体制整備を図る。

滋賀の魅力あふれる虹色キャンペーンを展開！

- 実施期間
平成30年7月～12月
- キャンペーンテーマ
虹色の旅へ。
滋賀・びわ湖



歴 食 遊 癒 観 買 美

- 滋賀の多彩な魅力を7色のカテゴリーで展開
- 虹色の魅力にふれあえる旅

(市町事業:168,900千円以上)

◆話題性のあるイベントの開催

- ・オープニングを飾るイベントの実施
- ・CPを盛り上げる期間限定の特別企画
- ・多様な取組との連携

◆楽しく周遊する企画の展開

- ・観光パスポート/SNSラリー
- ・特別周遊ツアーの造成
- ・フォトコンテスト

◆220を超える！

地域観光プログラムの展開

地域の観光素材を活かした季節感ある観光プログラムを全市町で220以上展開

◆おもてなし体制の充実

観光案内機能の充実
広域連携への支援

- 特別公開(延暦寺)
拝観者前年比132%(+4万人)
- まち歩き等123プログラム展開
2カ月で2万人超参加

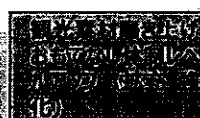
観光入込 4,794
万人達成

- ・日本遺産認定
- ・観光キャンペーン
基本計画書策定

観光入込 5,077
万人達成

- ・観光素材の磨き上げ
- ・おもてなし体制整備
- ・観光プログラムの造成へ

日本遺産
水の文化
ぐるっと博
(プレキャンペーン)



大型観光
キャンペーン

- ◆地域観光プログラム、おもてなし
体制のブラッシュアップと定着化
- ◆交通事業者との連携強化

全国に向けてPR！

発信

◆公式媒体

- ・特設ウェブページ
- ・パンフレット
- ・ポスター など

◆個人旅行者・SNS

- ・ネット予約サイトとのタイアップ
- ・SNS連携、インフルエンサー
- ・ウェブ・DSP広告

◆各種メディアによる発信

- ・首都圏～九州の交通メディア
(サイネージ、アドトレイン等)
- ・観光情報誌、パブリシティの活用
- ・観光展等
- ・旅行商品造成
- ・映画コンテンツ

課題(崩せ！3つの壁)

- ◆「認知」の壁
・観光地「滋賀」の認知度向上
- ◆「来訪」の壁
・滋賀ならではの特色あるツーリズム
- ◆「再訪」の壁
・満足度向上に繋げる受入体制



更なる
大型観光
キャンペーン
(JR6社DC)

- H32 東京オリンピック
・パラリンピック
- H33 関西ワールドマッス
ゲームズ2021
- H36 滋賀国体

成果・課題を検証！

平成27年

平成28年

平成29年

平成30年

平成33年以降

人口減少を見据えた豊かな滋賀づくりに向けたプロジェクト

参考資料

(1) 人口減少を食い止め、人口構造を安定させる

若い世代の結婚、出産、子育てや就学・就労の希望を叶え、結婚、出産、子育てがしやすい環境づくりを進める(自然増に関する施策)とともに、雇用創出や魅力的なまちづくりにより首都圏等への転出を抑制し、県外からの流入人口を増やす(社会増に関する施策)ことにより、人口減少を食い止め、人口構造を安定させます。

169事業

「結婚・出産・子育てするなら滋賀」プロジェクト☆

「豊かな学びのフィールド・滋賀」人づくりプロジェクト☆

滋賀ウォーターバレープロジェクト☆

次世代のための成長産業創出プロジェクト☆

産業人材育成・確保プロジェクト☆

働く力・稼ぐ力向上プロジェクト☆

移住促進プロジェクト☆

滋賀の素材・魅力磨き上げプロジェクト☆

(2) 人口減少の影響を防止・軽減する

出生数の減少と死亡数の増加により、当面、人口減少が続く、その影響は避けることができません。こうした影響を緩和し、住みやすい安心できる滋賀の暮らしを実現します。

174事業

高齢者の社会参加・健康長寿実現プロジェクト

滋賀エネルギーイノベーションプロジェクト

「東京オリンピック・パラリンピックで滋賀を元気に！」プロジェクト

持続可能な県土づくりプロジェクト

「山くろ湖」農山漁村つながりプロジェクト

交通まちづくりプロジェクト

地域の防災・防犯力向上プロジェクト

琵琶湖と人の共生でにぎわい創生プロジェクト☆

滋賀の農業次世代継承「世界農業遺産」プロジェクト

滋賀らしいゆとり生活再生プロジェクト

“ひとつながり”の地域づくりプロジェクト

(3) 自然と人、人と人とのつながり、生活のゆとりを取り戻す

人口の増加による恩恵を受けてきた一方で、失われたり十分得られなかった自然と人、人と人とのつながり、生活のゆとりを取り戻し、新しい豊かさを実感できる魅力的な滋賀をつくります。

66事業

注) ☆印は、総合戦略上、人口減少が進行する地域に直接的な効果が期待できる8つのプロジェクトと琵琶湖の保全・再生の取組を進めるプロジェクトで、重点的に取り組むプロジェクト

人口減少を見据えた豊かな滋賀づくり総合戦略関連施策

(単位：千円)

プロジェクト名	H30当初	
	件数	予算額
(1) 人口減少を食い止め、人口構造を安定させる	169	10,727,171
① 「結婚・出産・子育てするなら滋賀」プロジェクト	32	4,898,350
② 「豊かな学びのフィールド・滋賀」人づくりプロジェクト	40	3,839,406
③ 滋賀ウォーターバレープロジェクト	1	41,224
④ 次世代のための成長産業創出プロジェクト	32	649,029
⑤ 産業人材育成・確保プロジェクト	9	323,425
⑥ 働く力・稼ぐ力向上プロジェクト	16	227,976
⑦ 移住促進プロジェクト	3	40,954
⑧ 滋賀の素材・魅力磨き上げプロジェクト	36	706,807

(単位：千円)

プロジェクト名	H30当初	
	件数	予算額
(2) 人口減少の影響を防止・軽減する	174	50,728,119
⑨ 高齢者の社会参加・健康長寿実現プロジェクト	36	1,247,635
⑩ 滋賀エネルギーイノベーションプロジェクト	10	152,542
⑪ 「東京オリンピック・パラリンピックで滋賀を元気に！」プロジェクト	26	1,470,691
⑫ 持続可能な県土づくりプロジェクト	11	29,687,294
⑬ 「山～里～湖」農山漁村つながりプロジェクト	47	3,378,636
⑭ 交通まちづくりプロジェクト	9	13,874,446
⑮ 地域の防災・防犯力向上プロジェクト	35	916,875
(3) 自然と人、人と人とのつながり、生活のゆとりを取り戻す	66	4,759,291
⑯ 琵琶湖と人の共生でにぎわい創生プロジェクト	55	2,439,981
⑰ 滋賀の農業次世代継承「世界農業遺産」プロジェクト	3	13,819
⑱ 滋賀らしいゆとり生活再生プロジェクト	3	2,227,426
⑲ ひとつながりの地域づくりプロジェクト	5	78,065
計	409	66,214,581